

# 自社メールシステムから CYBERMAIL Σ に移行で 容量不足・安定性・サポート体制への不満を解消

## ～パッケージより小回りの利く設計に魅力～

1909年創業の株式会社有隣堂様は、神奈川を中心に東京・千葉の約40店舗にて書籍・文具などを販売する書店を展開しているとともに、オフィスレイアウト及びオフィス家具の提案による業務効率化に最適なICTソリューションを提供する外商営業、児童・学生から社会人・シルバー世代までが楽しめる「音楽教室・カルチャーセンター」などを手掛けている企業です。店舗においては、取寄せ品の入荷連絡といった店舗営業部門での顧客とのやりとりや、外商営業部門での得意先とのやりとりなど、BtoB、BtoCともコミュニケーションのかなりの部分をメールに依存しているとのこと。自社で運営していたメールシステムのトラブルを切っ掛けにシステム全体を見直すこととなり、複数の候補の中から当社の「CYBERMAIL Σ」への移行を決断いただきました。導入経緯や導入後の効果など、同社総務部情報システム課係長の簗島洋裕氏にお話を伺いました。



### User Profile



株式会社有隣堂

<https://www.yurindo.co.jp/>

本社：神奈川県横浜市中区伊勢佐木町1丁目4番地1

設立：1909年12月13日

### 導入前の課題

- ・クリティカルな障害の多発により業務に影響
- ・ユーザー1人当たりのメール容量の不足
- ・受信メールの自動振り分け（フィルタリング）機能への不満

導入製品



### 導入後の効果

- ・安定稼働かつメールの一元管理ができたことで運用がシンプルになった
- ・10MBほどだった1人当たりのメール容量が1000倍超となる10GBに
- ・スパムメールの自動削除など、フィルタリング機能が向上した

### ■ 導入の背景

## 容量不足はメールの削除で対応 システムダウンをきっかけに再検討

—「CYBERMAIL Σ」に移行される前のメールシステムはどのようなものだったのでしょうか。

Linuxをベースにしたシステムで、ライセンスフリーのコンポーネントを組み合わせてフルスクラッチで開発してもらったものです。それをサーバーとしてホスティングサービスで運用していました。以前からメール容量やフィルタリング機能に不満はあったのですが、大きな問題もなかったのもそのまま使っていたような状況です。

メールシステムを開発した当時はテキストベースのやりとりが前提だったので、昨今のような数MBのファイルが添付されることは想定していませんでした。容量の大きな添付ファイルは、各人が個別のHDDに保存して、メールはサーバーから削除していました。そのためファイルの共有などが非常に煩雑でしたね。また、迷惑メールに関してもメールシステムにスパム対策ツールを追加した程度だったので、機能的に不十分でした。

—見直しのきっかけは何だったのでしょうか。

一言で言うと、一定期間、メールが使えなくなったんです。メールシステムの開発はしてもらったのですが、保守契約を結んでいなかったんで、恒常的に予防点検などをしていなかったんですね。そのトラブルをきっかけに上層部から「事後対応では困る」と指摘されました。この際なので以前からあったメール容量やフィルタリング機能への不満もまとめて解消しようと考えました。

## ■導入の経緯

### 安定稼働、クラウド化を前提 必要最小限の製品を選定

—導入に至るまでは社内での議論はありましたか。

メールが使えない問題の解決のほかに、クラウド化によるメールの一元管理も目的の一つのため、サービス比較サイトなどで情報を収集し、「Office 365（現 Microsoft 365）」「G Suite（現 Google Workspace）」「One Office」などの製品が候補に挙がったのです。

メールを含むシステムに関しては一任されていたので問題はありませんでした。が、導入・運営のコストにはボーダーが出来上がっていたので、それを覆す理由が必要でした。以前のメールシステムはコストパフォーマンスだけは良かったので、上層部を説得するには苦労しましたね。欲しいオプションはいくつもありますが、上を見たら切りがない。

もう一つ、トラブルの再発を防ぐことも含めたうえでの業務改善が目的なので、できるだけ早く新しいメールシステムを導入しなければならないという背景もありました。その意味で、メールシステムに関しては必要最小限でいいと考えました。大規模なサービスは必要ない。

## ■選定で重視したポイント

### 回線への負荷に加えて コストパフォーマンスも考慮

—製品選定にあたって重視したことはどんな点でしょうか？

製品の比較に際しては必要な機能やコストといった条件のリストを作って、横並びで期待度、そしてコストパフォーマンスの良さを比較しました。

例えば「Microsoft 365」の場合、Office アプリなどもセットになっているのですが、社内的にはすでに文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフトの「Excel」を使っています。必要なものだけに絞り込んで導入コストを抑えたかったという事情があります。

また、文書作成ソフトや表計算ソフトを含む統合型のサービスはトラフィックが混雑しやすいとも聞いていました。実は、当社の通信回線はそれほど太くないため、安定性を優先するという意味もありました。

## ■選定した理由

### 充実した機能、安心できる 導入実績とサポート体制

—最終的に「CYBERMAIL Σ」に決めた理由は何でしょうか。

「CYBERMAIL Σ」は大容量、Webメールの操作性、組み合わせ可能なオプションの豊富さなど、機能・性能面が充実していたからです。

加えて、サポート体制が充実していることも「CYBERMAIL Σ」を選んだ大きな理由です。以前のメールシステムにおけるサポートは、トラブルが起きたときもメールでしか対応してもらえないものでした。やはり、その場で電話をかけて対応してもらえるのは大きいと思います。

「CYBERMAIL Σ」は国内導入実績も豊富なので安心感がありましたね。

## ■導入後の効果

### 安定のメール環境、充実した 機能により業務効率の向上、 メールの一元管理が実現

—導入はスムーズに進みましたか？

もちろん、その場で解決できる程度の些細なトラブルはありましたが、基本的にスムーズに導入できたと思っています。

—導入で課題は解消されましたか？

ユーザー目線では、メール容量の問題が解決したことで業務効率が大きく向上しました。容量が10MBだった時代は、古くなったメールや添付ファイルを削除するなど、つまらない作業から解放されたのはいいところだと思います。また、リプレイス前のメールシステムではまったく利用されていなかったフィルタリング機能も活用されているようです。ほかに、添付ファイルを外部に送信する時の暗号化が手動で操作していたものから自動化されましたので、セキュリティルール運用の手間を削減できました。

また、管理者目線ではサポートの手間が格段に減りましたね。メールシステムを新しくするとすると、それに対応できる人と、対応に手間取る人が出てきます。

「CYBERMAIL Σ」のインターフェースは分かりやすいので、使い方に関する問い合わせはほとんどありません。そして、今までメーラーの利用で各自のローカルに保存されていたメールデータも、今回のクラウド化により一元管理も実現できました。ちなみに、今後の課題ではありますが、添付ファイルをパスワード付きで送信するルールのところですが、「CYBERMAIL Σ」はすでに添付ファイルをダウンロード取得型のオプションがあるので、今のやり方をこのオプションに切り替えることでセキュリティルールの運用は維持できる点はいいところですね。サービス自体がいろいろなオプションを用意されているので、ニーズに合わせて自分たちに最適なメール環境が作れるのは安心です。

—最後に、今後の「CYBERMAIL Σ」への期待や要望などがあればお聞かせください。

やや陳腐化したグループウェアの刷新を考えていますが、必要のない機能まで課金する外資系や従量課金の国産サービスは全体のコストが把握しにくいので導入することが難しいです。もし、「CYBERMAIL Σ」にスケジュール共有、リーダーボード、ワークフロー、スレッド型内部メール、できればビデオ会議機能などグループウェアのような機能を買切りパッケージでの提供、連携をしていただければありがたいです。1ポータル画面ですべてほぼ完結できること、サポート窓口も一社にまとめていることはコストパフォーマンスがよくて便利だと思いますので、今後の展開も期待しています。



総務部  
情報システム課 係長  
藪島 洋裕様

